

知床岬からキタベニヒカゲ (鱗翅目: タテハチョウ科) を記録する

橋本 勝

099-4133 北海道斜里郡斜里町字三井183

New Record of *Erebia scoparia* (Lepidoptera: Nymphalidae) from Cape Shiretoko-Misaki, Eastern Hokkaido

HASHIMOTO Masaru

183 Mitsui, Shari, Hokkaido 099-4133, Japan

キタベニヒカゲ *Erebia scoparia* は北海道全域の低地から亜高山に広く分布しているタテハチョウ科ジャノメチョウ亜科の蝶で、幼虫はイネ科やカヤツリグサ科の草本を主な食草としている。

地理的変異および個体変異の大きい種で、知床半島基部の産地記録は多いが知床岬に近づくに従って記録が減少している。羅臼町側はウナキベツ (高野・外崎1962)、斜里町側は硫黄山 (小暮1988) がこれまででは最も知床岬に近い記録である。知床岬でのキタベニヒカゲの調査は2003年小暮氏らによるものが初めてのものであるが、本種は採集されていない (小暮私信)。

著者は2000年頃より斜里町および知床半島の昆虫相の調査と整理を行っているが、2009年に知床岬地域でキタベニヒカゲを採集したので報告する。

採集地は羅臼町赤岩海岸の砂浜で、採集したメス2頭は発生終期らしくどちらも汚損していた。これらは風に流され弱々しく波打ち際を飛んでいたもので、素手で簡単に捕らえることができた。採集個体の前後翅の色彩と斑紋は知床半島基部産のものと同じ変異内にはいると思われた。これらを新鮮な状態で観察するために強制採卵を試みた

が、採卵できたのは1卵のみで孵化はしなかった。

また、採集地から南へ約100 m離れた地点でさらに数頭のキタベニヒカゲが見られた。目撃地は海岸段丘を流れ落ちる小さな川のそばで、トウゲブキ、アメリカオニアザミ、イネ科sp.、カヤツリグサ科sp. などからなる草原であった。このような立地は現在の知床岬では珍しくなく、知床半島基部のキタベニヒカゲの産地とよく似ている。したがって今後調査が進めばこの地域における記録は増加すると考えられる。

本報告をまとめるにあたり小暮翠氏には文献の紹介および貴重な情報をいただいた。ここにお礼申し上げる。

採集標本

2 ♀, 26 VIII 2009, 羅臼町, 知床岬, 赤岩海岸 (図)。

引用文献

- 小暮翠, 1988. キタベニヒカゲの新産地等の記録
1. jezoensis 15: 1-6.
高野秀三・外崎誠, 1962. 知床半島の昆虫類1. 高野秀三 (編), 帯広畜産大学知床半島学術調査団

報告 1. pp. 61-76. 帯広畜産大学, 帯広.

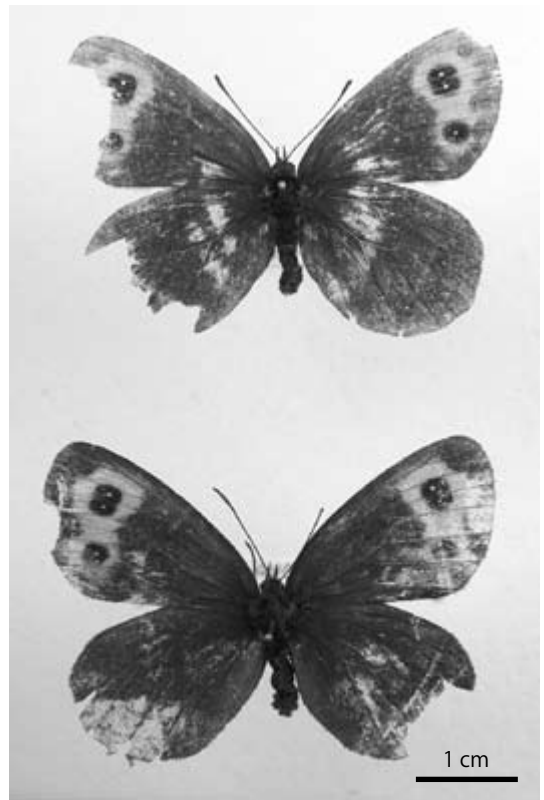


図. *Erebia scoparia* キタベニヒカゲ. 26 VIII 2009, 羅臼町, 知床岬.